

## 巻頭のことば

朝倉敏夫

今年度の『立命館食科学研究』は、定年を迎える井澤教授と松原教授、そして私のため、それぞれの特集号を刊行することになり、定番号と合わせて計4冊が刊行されることになった。このうち私の特集号の巻頭のことばは、出版委員長である松原教授が執筆され、残りの3冊については学会長である私が執筆ということになった。

本号は、井澤裕司教授の特集号である。そのため、古巣の経済学部をはじめ、井澤先生にゆかりの方に広く執筆依頼のお声掛けをさせていただいた。まずは、ご寄稿くださった先生方にお礼を申し上げたい。

井澤先生は定年を迎えられるが、来年度からも特任教授として本学部において研究・教学の任をまっとうしていただくことになる。ここでは、本学におけるこれまでの功績を紹介しておきたい。

井澤先生は、1992年に立命館大学経済学部にも助教として赴任し、98年に教授に昇任、ファイナンス研究センター長、BKC社系研究機構長、副学部長など、経済学部において重責を担ってこられ、2018年の本学部開学にもなって転籍された。

ご専門は行動経済学と金融・ファイナンスであり、2018年度の経済学部の「演習要項」に、ご自身の紹介文を次のように書かれている。「もともとは金融、特に銀行行動の理論・実証分析を専門にしています。ファイナンスの研究を経て、現在は行動ファイナンス、実験経済学にも手を出しています。またそこから更に派生して、最近では食選択の行動科学的分析という分野に興味を持ち始めました。食は学生諸君の関心も高いのですが、認知の科学という観点からも行動経済学と親和性が非常に高いということに気がつきました。食選択の経済学という新しい学問分野に少しでも貢献できれば、と願っています。」経済学部から食マネジメント学部への転進宣言ともなっているように思われる。

井澤先生の功績のなかで特筆すべきは、食マネジメント学部の設立についてである。私は2016年から経済学部に着任し、学部設置の任の一端を負ったが、井澤先生は2011年から総合企画室副室長となり、学部設置にむけた学内における折衝をすべて行い、2015年に食マネジメント学部設置委員会事務局長になられた。まさに、レールを敷くところからはじめられ、機関車となり邁進された。また、2014年1月に、現在の食総合研究センターの前身である国際食文化研究センターを立ち上げ、事務局長として、立命館大学における「食研究」の踏み台も整えておいてくださった。

また、社会的活動としては、行動経済学会監事、京都市指定金融機関選定委員会委員長、近畿経済産業局IoT等を活用した食関連サービス研究会委員、パーソナルファイナンス学会理事などを歴任されている。

最後に、本学部設立の功労者に私が申すのは僭越だが、「初心忘るべからず」の言葉とともに、本学部の設立の理念を伝えていただき、研究・教学においてご活躍いただきたいと願っている。

